農家のヨメ?!通信 VOL.9

農家に嫁いで感じた
「？」や「！」をお届けします。
農家の暮らしは、
かなりオモシロイ！

ヨメ?!

十勝で約100年続くとやま農場の長男と、
2015年2月に電撃入籍。雑誌の編集を続けながら、休日には農場の仕事を手伝う。
クナウマガジンが発行する
「スロウな旅 北海道」で編集長を務める。

娘のこと

今年の春、娘が産まれた。産まれたてのほやほやだった赤ちゃんが笑うようになり、手を動かすようになり、意思を持って泣いたり怒ったりするようになる。まず感じたことは、自分もこうして育ててもらったことへの感謝の気持ち。今では押しても引いても倒れない(?)たくましい母も、初めは私と同じように右往左往しながら、徐々に「母」になっていったんだなあと、世の中のお母さんすべてを尊敬のまなざしで見ているこの頃である。お腹にいた頃から私にあちこち連れ回されていた娘。お産も順調、産まれてからもすぐにおっぱいをたくさん飲み、病気もなく、すくすくと大きくなってくれていてありがたい。初めての我が子というのは、言葉では表現できない、何者にも代え難い存在だ。初めはおっかなびっくり接していた夫も徐々に慣れ、娘とのお風呂タイムを仕事終わりの楽しみにしてくれている。母はよくオムツを取り替えてくれ、夫の留守にはお風呂にも入れてくれる。じいちゃんは動物の鳴き真似であやしてくれるのが定番だし、週末になれば弟たちが訪れ、かわるがわる可愛がってくれる。育児休暇中のこの一年は、娘とずっと一緒にいられる2度とない時間。春に産まれ夏が過ぎ、これから秋、冬と巡る季節を、一日一日大切に過ごしていこうと思う。

夏と秋のお楽しみ

我が家のある帯広市清川地区は農村地域。世帯の大半が農業を生業としている。昔から地域の行事として行われているのが、6月と9月の運動会とお祭り。6月は種蒔きが終わった頃に、9月はこれから始まる収穫期へ向けて、どちらも農作業の安全や豊穣祈願などと深く関係している。当日は朝にそれぞれの地域の神社にお参りし、小中学校のグラウンドや体育館で8つある町内会対抗でスポーツ交流が行われ、その後は焼肉や屋台などで食事を共にするのが習わしだ。嫁いでから知ったその行事を、私は毎年とても楽しみにしている。単純に運動好き、祭り好きだからというのもあるが、地域で続いてきた伝統行事を大切にしたいと思うからだ。

夏の運動会は、輪を転がしながら走ったり、砂袋を飛ばして距離を競ったりなど、誰でも取り組みやすい競技が中心。夫は毎年玉入れ専門(これが結構うまい!)、私や弟たちは各種競技に借り出され、母は大きな声を生かして応援担当(これに励まされる!)。今年は娘も夫に抱っこされて幼児競争デビューし、終わってみれば我が町内会が3連覇を達成！ 秋の運動会のミニバレーとソフトボールは残念ながら結果は振るわなかったが、そもそも交流を目的としているので順位はあまり関係ない。街で一人暮らしをしている時は、隣近所と顔を合わす機会すらなかった。代々この土地に住み、お互い助け合いながら生活してきたからこその繋がりが残る農村地域。親から子、孫と顔が知れる地域に暮らすことは、心に安心感を与えてくれる。

立ち型野菜

北海道の夏といえばトウモロコシ。時期になればあちこちで売っているのをみるし、トウモロコシ刈りなどのイベントも多い。特に道外、海外からの観光客には根強い人気の野菜だ。我が家は自家用にしか育てていないが、その食べ方や保存方法について嫁いでから教わったことがある。「鍋を火にかけてから採りに行けと言うくらい、鮮度がおいしさの秘訣である」ことと、「立ち型野菜は、保存も立ったままの状態で」ということ。ほうれん草やアスパラも含め、寝かせておくと、立とうとしてエネルギーを使い、特に糖度が激減するという。料理教室は数あれど、野菜の育ち方や保存方法、切り方などについて知る機会はそう多くはない。

「農家だからこそ伝えられること」。農場では父母の代からイベントや家族新聞を通して少しずつ発信している。インターン生や修学旅行生の受け入れもそのひとつだ。畑は大きな教室。作物ひとつとっても、国語算数理科社会の要素が詰まっている。母や夫が語る作物の話を、子どもたちに負けじと目を輝かせて聞いている私。知らないことを知る楽しみは、歳を重ねるごとに増していくような気がしている。